

1年間の活動の集大成

令和5年度「SS発展探究」課題研究発表会・SS部研究発表会開催

◇期 日：令和6年1月26日（金）5・6時限

◇場 所：本校第一体育館

◇参加者：本校1・2年探究科学科生徒160名、SS部員31名、
課題研究指導の富山大学の先生方、県内外の教育関係者、生徒保護者、本校教職員

課題研究発表会は、探究科学科2年の探究活動及び各SS部の研究成果の発表を通して、参加者が深い学びを得ることのできる場である。普段の授業とは異なる学びの側面を感じられる2年探究科学科の研究成果と各SS部の研究をじっくりと知るまたとない機会であり、他方、発表者側もポスターセッションや質疑応答を通してさらなる学びが期待でき、相互に学びを深めあえる機会だ。今年も、本校生徒の他、富山大学の先生方や生徒保護者など多くの方々に発表を通して1年間の成果を見ていただくことができた。



ポスターセッションでは、発表者は4回・各20分のコアタイムのうち割り当てられた2回で発表を行った。各班とも20分という短い時間を精一杯有効活用して、自分たちの研究結果を懸命に伝えようとした。研究は他者にしっかり伝えることで初めての的確な批評・アドバイスを受けることができ、それらを通して研究はさらによくなっていくため、いかに人に伝えるかは探究活動において重要だと感じた。また、発表を聞く側も4回しかないコアタイムのなかで自分の気になる研究の発表を聞いて、多くのことを学ぼうとする様子が見られた。

探究科学科による発表は、12月の三校合同発表会で得た様々な意見や助言をもとに内容が整理され、研究が一層深まっていた。特に発表の仕方について、声量や立ち位置、話す順序などを工夫し、聞く側にとって理解しやすくなっていたと感じた。内容面でもさらに進んだ研究が多く、互いの発表がよい刺激になり、生徒はみな今後の探究活動への意欲が高まっているようだった。



また各SS部による発表では、各部から選ばれた生徒らが1年間の研究の成果を発表し、聞く人を惹きつけていた。SS物理部の発表では、普段の高校物理では特に説明もなく一定のものとして扱われる動摩擦係数に着目し、坂をすべる物体について実際の摩擦係数の変化が調べられており、とても興味深かった。

今回は大学や高校の先生方との専門的な質疑応答もあって、ハイレベルな質問への対応に苦しむ場面も見られたが、全体を通して多くの生徒にとって良い刺激になったと思う。課題研究発表会で得た学びを今後に生かしていきたい。